

JET からの手紙

英語で広がる可能性とつながる世界

岡山県高梁市教育委員会学校教育課

Seana Magee (ショーナ・マギー)

2013年7月12日、マララという16歳の少女が国連のステージで語ったスピーチは、私の人生を変えました。当時、パキスタンの学校に通っていた彼女は、ある日突然テロリストによって銃で打たれてしまいました。奇跡的に一命をとりとめた彼女は国連でその体験を英語で語り「皆さん、本とペンという武器を手に入れてください」と訴えました。「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えることができる」という彼女の言葉は、私たちに深く感動させました。

その5年後、私はジャーナリストとして国連に来たあ的高校生たち取材することになりました。彼らは、福島ふたば未来学園の生徒たちで、2011年の東日本大震災の時、とてつもなく多くのものを失い、信じられないほどの困難に直面していました。しかし、彼らはその言葉にしがたい沢山の思いを、英語で熱心に語ってくれたのです。

この時の体験は、JETプログラムに応募したいという私の気持ちを強く後押ししてくれました。日本の若者が

英語を使ってどのように世界への扉を開くことができるか、今度は私がそれを応援したいと思ったのです。

マララのエピソードを通じた議論やスピーチ

私が受け持っている高梁中学校の英語クラスの最終的なプロジェクトは、生徒たち自身が思い描く国連演説を書いて発表することでした。そのきっかけとして、約7年前に私の心を揺さぶったマララのスピーチのことを生徒たちに熱心に教えました。

生徒たちが、型にはまった普通のスピーチではなくオリジナルなスピーチを考えられるように、英語の担当教師と私は自由形式の質問を工夫しました。最終的に、生徒たちのスピーチは素晴らしく、彼らを変え誇りに思いました。何人かが「笑顔と友達は子どもたちの最大の武器」だと言ったことに大変感動しました。

また、ある生徒たちは演説の中で「政治家は全ての人々が平等に教育を受けられるようにすべき」と発表してくれました。彼らが「自分の言葉で世界を変えることができる」と実感できたことは、この授業で最も大切なこと



マララについての授業の様子



話し合いの様子



ドリームキャッチャーを作ってパチリ！

だったと思います。

ドリームキャッチャーと新聞

夜間定時制である松山高校では、15～72歳の生徒を対象に授業をしています。ハロウィーンにはジャック・オ・ランタン、クリスマスにはデコレーション・クッキーを作るなど、少しユニークな授業をします。つい先日は、ネイティブアメリカンの伝統に由来するドリームキャッチャーを作りましたが、その時に彼らは、目標や夢について語ってくれました。

もう1つ、とても印象的だった授業は、生徒一人ひとりが自分自身の新聞を作ったことです。それぞれが懂れている人や仕事などについて取材したり、学校で飼育しているサンショウウオをカラスが誘拐した事件について調べたり、英語を通して興味深いエピソードをたくさん掘り下げることができました。

また、授業時間以外にも、70代と20代の2人の生徒と一緒に英語でフリーディスカッションをして、お互いまだ知らないことについて情報交換を行っています。

私と英語の担当教師は最後のクラスで、ガウンを着て、卒業証書を持って、キャップを投げるというアメリ

カ式の卒業式をひそかに計画しているので、今からその日をととても楽しみにしています。

未来への想い

高梁川沿いに家路を辿るとき、ふと立ち止まって、過ぎ去った月日に思いを巡らせることがあります。しかし、私にはまだまだ成し遂げたいことがたくさん残っています。立ち止まりそうになったとしても、明日に向けてまた一歩踏み出すことができるのは、これからの未来に希望を持つことができるからです。日本の若者たちと共に、美しい未来を信じて。

プロフィール



Seana Magee

現在、岡山県高梁市立の高梁中学校と松山高等学校で2年目のALTを務めている。来日前はニューヨークに住み、共同通信の英語記者として、主に国連を取材していた。ハワイ大学で異文化コミュニケーションの修士号を取得。